

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名	国 語
-----	-----

	指導方法の課題分析 (学習における児童の実態等)	具体的な授業改善策	改善状況 ◎○△
第1学年	- 文章の順序や内容を一緒に追っていくと大半の児童は理解できている。しかし、様子や気持ちを想像するには個別支援が必要な児童もいる。 - 平仮名の読み書きが不十分で、文章の意味を正しく理解できていない児童もいる。また、設問の意味を読み取れず、記憶を頼りに思いつきで答えることもある。	- 文章の読み取りの際、言葉を頼りにしながら内容を読み取る学習を繰り返し行う。また、音読をする中で言葉の楽しさを十分味わわせる。 - 読み聞かせの時間を週に1回程度もち、読書を通して文章に慣れることで、豊かに想像する力を育てる。 - 文字の学習に年間を通して継続的に取り組む。	
第2学年	- 句読点の使用、主語と述語など、1文を正しく書くことができない。 - 語彙が少なく、自分の気持ちや考えをうまく文に表すことができない。	- 短い文を作る活動について、間違いやすい例や正しい文の例を、話合う活動や ICT 機器の活用をとおして、繰り返し共有する。 - 読書の時間を充実させ、多くの語句や表現に触れさせる。	
第3学年	- 言語事項では、漢字を書いたり文章の中で使ったりする力がまだ不十分である。 - 主語と述語のつながりを意識して文章を書くことができない。	文がどのように組み立てられているかを理解するために、文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けるように指導する。	
第4学年	- 漢字を書いたり、文章の中で使ったりする力が不十分である。 - 筋道立てて考える力が不十分である。 - 自分の思いや考えをまとめて、言葉に表す力が不十分である。	- 日常的に文章を書き、習った漢字を使うようにさせる。 - 出した問いに対して、なぜそのように考えたか、根拠をもたせるようにする。	
第5学年	- 説明文では、文章構成を捉えたり、要旨をまとめたりすることで、重要な箇所を自分で捉える力が身に付いてきている。ただ、語彙の少なから、正確に意味を捉えきれない児童も多く見られる。 - 日ごろの生活が単語のやり取りで成立してしまうためか、文章を書く能力、原稿用紙の使い方等が身に付いていない児童が多い。	- 音読の宿題で繰り返し文章を読ませたり、意味調べの時間をとったりすることで、語彙を増やしていく。 - 新聞づくりや作文などマス目のある用紙に文章を書かせることで原稿用紙の使い方を確認する。 - 自分の考えを書く際は、型などを提示しながら的確にまとめられるように指導する。	
第6学年	- 説明文では、文章構成を捉えたり、要旨を的確にまとめたりすることを中心に学習を進めた。重要な箇所を自分で捉え、決められた文字数でまとめる力が身に付いてきたと感じる。 - 自分の考えを書く際に、叙述を根拠にしたり理由を明確にしたりして書くことに困難を感じる児童がいる。	- 教科書や全文が記載されているプリントにサイドラインを引き、重要な文章を可視化して読み取りを深めていく。 - タブレットや辞書を手元に置いてすぐに調べたり、活用したりできるようにする。	